

令和元年(2019年)7月2日(火曜日)

# バイオトイレで ネパールに清流

下水による河川の汚濁が深刻化するネパールで、三島市のNPO法人グラウンドワーク(W)三島がバイオトイレの設置計画を進めている。水質悪化は感染症や幼児の死亡率上昇を引き起こし、「解決の糸口も見いだせない状態」(同国関係者)。GW三島は富士山の環境保全に取り組んだ経験を生かし、ネパールの河川でかつての清流を取り戻す。

## 富士山保全経験生かす

首都カトマンズの世界遺産パシュパティナート寺院にバイオトイレを設置し、敷地内を流れるバグマティ川の水質浄化に乗り出す。分解力の高い杉チップを活用したし尿処理設備1基と仮設トイレ10基を、来年2月まで

## グラウンドワーク三島 下水汚染改善へ

に現地に送る計画。費用の総額1千万円は既に日本国内の民間企業から全額支援の内諾を取り付けた。

GW三島によると、ネパールでは人口の急増と電力不足により下水処理が追いつかず、し尿や生活排水が川に流されてい



下水による汚染が深刻な河川。バイオトイレで水質浄化を図る  
＝ネパールのバグマティ川

育文化センター長のアスミン・シトウラさん(29)は「夏は一斉に体調を崩し、幼い命を脅かす。水の汚れは社会問題だ」と語る。

GW三島は2001年に富士山で杉チップを使ったバイオトイレの実証実験を始め、2年半で3万人分のし尿処理を成功させた。富士山には10年までに49基のトイレが設置され、現在も活用。成果を聞きつけたネパール政府の関係者が水質改善について助言と協力を求め、今回に至った。

トイレの処理能力は1日に約700人分。GW三島の渡辺豊博専務理事は「もっとトイレを増やしていく。いずれはネパールでトイレを製造し、現地の雇用創出にもつなげたい」との構想も抱く。

(三島支局・金野真仁)